

# 「第二次町田市環境マスタープラン」 2017年度進捗報告書

本資料では、「第二次町田市環境マスタープラン」で掲示した5つの基本目標ごとに、2017年度までの計画の進捗状況をまとめました。

5つの基本目標に対する**達成目標**、「第二次町田市マスタープラン」の推進計画である「後期アクションプラン」内で掲示した、市が重点的に取り組む事業である**重点事業**及び**その他の施策**の3点について報告します。

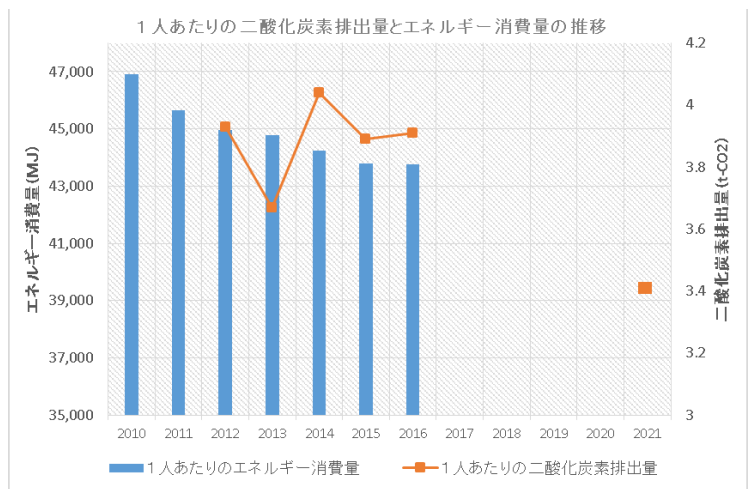
なお、後期アクションプランの重点事業、その他の施策の項目では、その事業がそれぞれの基本目標中で、どの達成目標に関連があるかを目安として示しています。

# 1 地域で取り組む地球温暖化の防止

<達成目標の進捗状況>

2021年度までの達成目標	達成状況			
	基準年	2016年度	2017年度	2021年度
①市民一人あたりの二酸化炭素排出量（2010年度、3.8 t-CO <sub>2</sub> /人）の10%削減を目指します。	3.8 t-CO <sub>2</sub> /人	3.91 t-CO <sub>2</sub> /人	集計中	3.42 t-CO <sub>2</sub> /人
「地球温暖化対策の推進に関する法律：温対法」に基づいた計算方法で算出した値	3.78 t-CO <sub>2</sub> /人	3.76 t-CO <sub>2</sub> /人	集計中	
②再生可能エネルギーの市内エネルギー消費量に対する割合0.3%（2010年度、0.05%）を目指します。	0.05%	0.16%	-	0.30%
都内における再生可能エネルギーによる電力利用割合	11.1%	12.1%	集計中	30% (2030年度)
③マイカーの使用はできるだけ控え、徒歩または自転車、電車、バスを利用する市民の割合（2011年度、37.1%）の10ポイント増の47.1%を目指します。	37.1%	31.2%	29.2%	47.1%

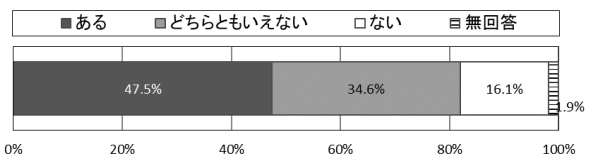
- ① 東日本大震災以降、市民一人あたりの電力、都市ガス等のエネルギー使用量は減少傾向にあります。しかし、原子力発電が停止し、化石燃料使用による発電が増加した影響で、二酸化炭素排出量の削減は進んでいません。
- ② 市内のエネルギー消費量に対する再生可能エネルギーの割合は、2016年度まで実施していた設置補助事業による導入設備を対象としていたため、事業が完了した2017年度以降は、都内の状況を参考として記載します。
- ③ マイカー使用をできるだけ控える市民の割合は毎年減少しています。



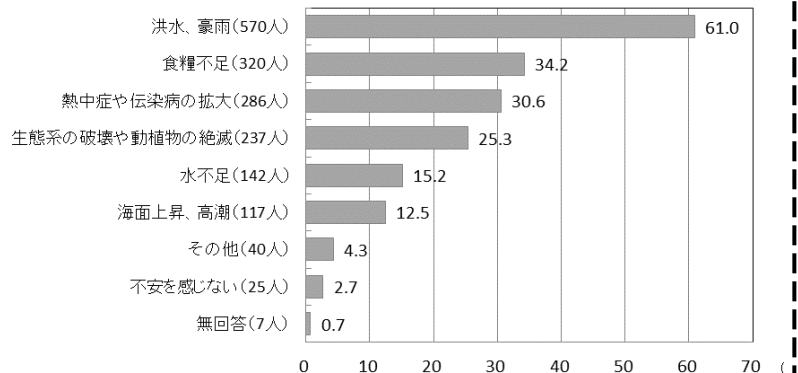
## アンケート結果 地球温暖化について

参考資料1\_P3、6

Q.あなたは、町田市の気候が以前と比べて変わってきていると感じたことがありますか。



Q.地球温暖化などの環境問題を原因とする異常気象の影響で、あなたが不安に感じることは何ですか。（2つまで）



Q.あなたのご家庭では再生可能エネルギーを導入していますか。  
導入している：10.2%

<施策の取り組み結果>

取り組み結果の表記

◎：予定以上に進んだ ○：予定どおりに進んだ

△：あまり予定どおりに進まなかった ×：まったく予定どおりに進まなかった

●重点事業

関連 達成 目標	番号	重点事業名	目標	基準年度 状況(値) (2015年度)	目標(値) (2021年度)	2017年度		年 進 捗 目 標
						年度目標(値)	年度末現状(値)	
①	1	「わたしのエコ宣言」の実施による家庭での取り組み支援	わたしのエコ宣言参加者の増加	-	10,000人	1000人	985人	○
①	2	みどりのカーテン等の積極的な導入	公共施設参加数の増加	45施設	300施設	60施設	39施設	△
			市民向け苗の配布数の増加	8,000苗	10,000苗	8,000苗	5,900苗	
①	3	歩道の透水性舗装の整備	透水性舗装面積の増加	25,958㎡	34,240㎡	365㎡	30,777㎡	○
① ③	4	路線バス利用環境整備	既存バス停を活用した乗り継ぎ拠点の整備完了	協議開始	既存バス停を活用した乗り継ぎ拠点の整備完了	①小山田桜台の乗り継ぎ拠点化工事完了 ②乗り継ぎ拠点を活用したバス路線網再編	①乗り継ぎ拠点化工事完了 ②検証運行開始	○
①	5	水素ステーションの誘致	水素ステーションの誘致	-	定置式または移動式1施設	1施設	-	△
①	6	エコドライブの周知、普及・啓発の実施	エコドライブ実践者の割合の増加	42.8%	エコドライブ実践者の割合2015年度比10ポイント増	44.8%	45.4%	○
①	7	特別緑地保全地区等の指定拡大	特別緑地保全地区の面積の増加	43ha	46ha	広袴神明ふるさとの森(3.3ha)の指定	46.3ha	◎

年度目標進捗が△の事業の状況を説明します。

(重点事業2) 新たな取り組みとして4月に土づくり講習会(参加者10名)を開催したほか、育て方講習会(参加者50名)を開催し、5月に苗の配布を行いました。更には、7月には緑のカーテンの写真を広く募集し、応募した写真はホームページで公開しました。

商店会の参加が少なく、目標に達しませんでした。2018年度は施設への積極的な呼びかけや広報の方法の工夫を検討していきます。

(重点事業5) 市内の交通量が多い幹線道路沿いを中心にステーション適地の調査を行いました。市内数カ所の誘致候補地を検討したものの決定に至りませんでした。2018年度は引き続き他部署や地元の不動産事業者等と連携して情報収集を図り、誘致候補地の検討を行います。

●その他の施策

基本目標1	関連 達成 目標	取り組み結果(取り組み数)			
		◎	○	△	×
	①	5	27	3	0
	②	0	7	0	0
	③	0	8	0	0
	計	5	42	3	0

※複数の達成目標に関連する施策の場合は、重複してカウントしています

## 2 自然環境と歴史的文化的環境の保全

<達成目標の進捗状況>

2021年度までの達成目標	達成状況			
	基準年	2016年度	2017年度	2021年度
①市域面積に占める安定的に確保された緑地の割合（2010年度、28.9％）を、2020年度までに概ね30％確保することを目指します。	28.9%	28.7%	28.8%	30%
②町田市内での水辺（河川・池・公園等の水辺）とのふれあいについて満足している市民の割合（2011年度、39.8％）の10ポイント増の49.8％を目指します。	39.8%	44.3%	43.7%	49.8%
③生きものに関心のある市民の割合40％（2013年度、31.3％）を目指します。	31.3%	27.8%	37.4%	40%
③市内エコファーマー認定農業者数（2010年度、74人）の5％増（4人以上）を目指します。	74人	22人	-	78人

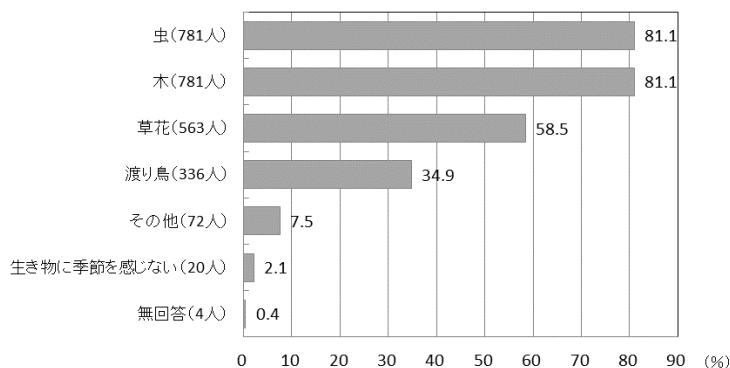
- ① 市域面積に占める緑地の割合は減少しています。緑地保全基金等を活用し緑地確保に取り組んでいますが、生産緑地の減少もあり、基準年度比で減少している状況です。
- ② 水辺とのふれあいについて、満足している市民の割合は2016年度と比較すると0.6ポイント減少していますが、基準年と比較すると3.9ポイント増加しています。
- ③ 生きものに関心のある市民の割合は、基準年と比較して6.1ポイント、2016年度と比較すると9.6ポイント増加しました。

※エコファーマー認定農業者は、都の制度変更により増加が見込まれず現状にそぐわないものとなったため、後期期間から指標を変更しました。

### アンケート結果 町田市の生きものについて

参考資料1\_P4、5

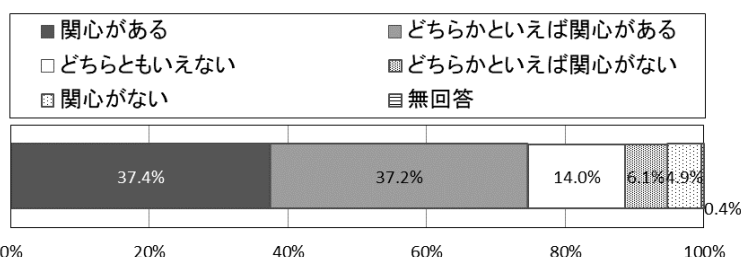
Q. 町田市内のどのような生きものに、季節を感じますか。（あてはまるもの全て）



#### 主なその他意見

- ・ウグイス（16件）
- ・その他の野鳥（12件）
- ・サクラ・桜並木（10件）
- ・その他の樹木・草花（10件）

Q. 町田市内の生きものに関心がありますか。 達成目標2-③



<施策の取り組み結果>

取り組み結果の表記

◎：予定以上に進んだ ○：予定どおりに進んだ

△：あまり予定どおりに進まなかった ×：まったく予定どおりに進まなかった

●重点事業

関連 達成 目標	番号	重点事業名	目標	基準年度 状況(値) (2015年度)	目標(値) (2021年度)	2017年度		年 度 進 捗 目 標
						年度目標(値)	年度末現状(値)	
①	8	都市計画公園の用地取得・整備	町田薬師池公園四季彩の杜 西園・北園の整備完了 野津田公園、芹ヶ谷公園の一部整備完了	—	・町田薬師池公園四季彩の杜 整備完了 西園(2019年度)、北園(2020年度) ・一部整備完了 野津田公園(2021年度)、芹ヶ谷公園(2019年度)	・薬師池公園 用地取得、ゲートハウス実施設計、バスベイ実施設計、西園整備工事・野津田公園 用地取得、拡張区域基本設計、大型映像装置実施設計・整備工事等 ・芹ヶ谷公園 実施設計、植生管理	・薬師池公園 バスベイ実施設計・西園整備工事(1/3) ・野津田公園 拡張区域基本設計・大型映像装置整備等 ・芹ヶ谷公園 実施設計・植生管理(1/3)完了	○
②	9	水辺の魅力の発信	情報発信回数の増加	—	20回	4回 忠生公園における観察会の実施	5回 17回	◎ ○
③	10	生物多様性情報拠点機能の構築・充実	生物多様性情報拠点機能の整備・充実	内容、方向性の検討	生物多様性情報拠点機能の整備・充実	生きものストップ(仮)を一か所設置する	0カ所	×
①	11	北部丘陵の整備	新たな取り組みにより維持管理や活用が図られた山林等	—	5,000㎡	モデル地区の抽出完了	約6,600㎡	◎
①	12	遊休農地のあっせん	農地あっせん面積の増加	14.3ha	20ha	遊休化している農地1haの利活用	15.5ha	○
①	13	観光交流拠点を活用したイベントの実施	小野路宿里山交流館での自然や歴史・文化に関するイベント実施回数の増加	32回	40回/年	40回	34回	△

年度目標進捗が△、×の事業の状況を説明します。

(重点事業 10) 「生きものストップ(仮)」\*の設置を進める中で、実際の場所の整備よりも、まず情報拠点機能のあり方を検討し、インターネットやアプリなどの情報機器を活用することも含めて情報拠点の構築を図っていくこととなりました。2018年度はこの検討を継続するとともに、ホームページ上のコンテンツ「町田市の生物多様性のページ」の公開、充実を進めていきます。

\*団体や市民の方が、気軽に生きものに関する情報を得ることができる場所

(重点事業 13) 「小野路の歴史の記憶をたどるツアー」や「冬の里山 野鳥観察会」などの他、新たなイベントとして、土蔵での展示「端午の節句」などを実施しましたが、天候不良によるガイドツアーの中止などのため、目標回数を達成できませんでした。2018年度も引き続き、各種イベントを開催します。

●その他の施策

基本目標2	関連 達成 目標	取り組み結果(取り組み数)			
		◎	○	△	×
	①	1	26	2	2
	②	0	7	2	0
	③	3	14	0	1
	計	4	47	4	3

\*複数の達成目標に関連する施策の場合は、重複してカウントしています

### 3 持続可能な循環型社会の構築

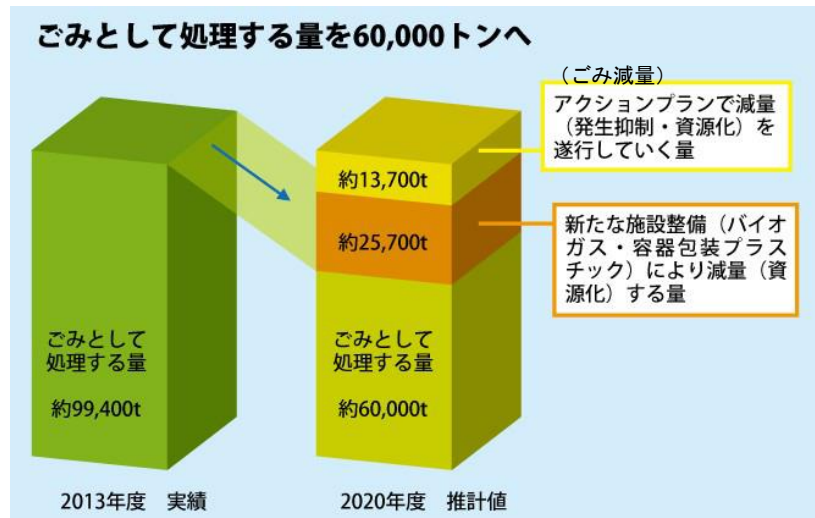
<達成目標の進捗状況>

2021年度までの達成目標	達成状況			
	基準年	2016年度	2017年度	2020年度
①ごみとして処理する量（資源ごみを含まない：2009年度、9万9千t）を40%削減し、2020年度に6万tにします	99,152 t	94,880t	92,894t	60,000 t
②一人一日あたりのごみとして処理する量（資源ごみを含む：2010年度、842g/人・日）を、2020年度までに782g/人・日に削減することを目指します。	842 g	788g	770g	782.0 g
③資源化率（2010年度、26.7%）を、2020年度までに54%まで高めることを目指します。	26.7%	26.1%	25.8%	54.0%

- ① ごみとして処理する量は、基準年から約 6,200 t 減少しています。
- ② 一人あたりのごみ量は、770 g と減少しています。
- ③ 資源化率は、基準年度から低下しています。

#### 町田市一般廃棄物資源化基本計画 削減目標について

町田市では、「町田市一般廃棄物資源化基本計画」で、2020年度までに「ごみとして処理する量を40%削減」することを全体目標としています。目標達成には、約 39,400 t の減量が必要ですが、新たな施設整備の計画（生ごみのバイオガス化による資源化及び容器包装プラスチックの資源化）により、約 25,700 t が減量される予定です。



施設整備はP.7で示すとおり、稼働時期が遅延し、2020年度の目標達成は見込みない状況です。引き続き、施設整備を着実に進めると共に、施設によらない約 13,700 t の減量については、2015年度に策定したごみ減量アクションプランに基づく取り組みを進めていきます。

<施策の取り組み結果>

取り組み結果の表記

◎：予定以上に進んだ ○：予定どおりに進んだ

△：あまり予定どおりに進まなかった ×：まったく予定どおりに進まなかった

#### ●重点事業

関連達成目標	番号	重点事業名	目標	基準年度状況(値) (2015年度)	目標(値) (2021年度)	2017年度		年進捗目標
						年度目標(値)	年度末現状(値)	
①	14	情報発信拠点としてのリサイクル広場の活用	リサイクル広場開催箇所数の増加	17ヶ所(2014年度)	23ヶ所(2020年度)	・リサイクル広場まちだでの回収品目追加	24ヶ所	○
			リサイクル広場来場者数の増加	30,000人(2014年度)	36,000人(2020年度)	・リサイクル広場の利用者数の増加	33,584人	
①②③	15	ごみ減量に関する出前講座の充実	出前講座実施回数の増加	104回/年(2014年度)	150回/年(2020年度)	115回	117回	○



関連達成目標	番号	重点事業名	目標	基準年度状況(値) (2015年度)	目標(値) (2021年度)	2017年度		年度進捗目標
						年度目標(値)	年度末現状(値)	
① ② ③	16	食品ロスの啓発等、各種キャンペーンの実施	キャンペーンの実施回数の増加	12回/年(2014年度)	20回/年(2020年度)	30回/年	39回/年	◎
	17	事業者向けの情報提供の実施	説明会開催回数	—	1回/年(2020年度)	・事業所訪問100件 ・事業者の紙ごみを受け入れる施設の検討1か所 ・表彰制度の創設	2回実施	○
			市内事業所への訪問件数の増加	—	190件/年(2020年度)		198件	
	18	生ごみ処理機の導入促進	生ごみ自家処理世帯数の増加	1,831世帯(2014年度)	14,981世帯(2020年度)	生ごみ自家処理数200世帯の増	2,883世帯	△
19	ごみ・資源の新たな効果的な収集方法の検討	効果的な収集方法の確立	—	効果的な収集方法の確立(2020年度)	資源ごみ処理施設の稼働に合わせた収集方法、収集地区割りの検討	収集方法を検討中	△	
① ③	20	熱回収施設等の整備	熱回収施設等(焼却施設、バイオガス化施設、不燃・粗大ごみ処理施設)の整備、稼働開始	事業者候補者選考委員会の開催、整備運営事業者の選定	稼働開始	・熱回収施設の建設に向け、実施設計、法令手続きを進め、旧管理棟等の解体及び造成工事を実施 ・地区連絡会等において周辺住民と合意形成を図りながら、安心安全な施設の建設を進める	造成工事進行中	○
	21	資源ごみ処理施設の整備	① 資源ごみ処理施設(相原)の整備、稼働開始 ② 資源ごみ処理施設(上小山田)の整備、稼働開始	① 要求水準書案の作成準備 ② 施設計画等検討	①稼働開始(2025年度) ②稼働開始(2027年度) ※2018年3月に稼働開始目標年度の見直しを行いました(当初目標は2020年度)。	・用地取得に向けて、必要な調査及び地権者との協議を進める ・地区連絡会等において周辺住民と合意形成を図りながら、施設建設計画を推進する	関係者等と調整中	×

年度目標進捗が△、×の事業の状況を説明します。

(重点事業 18) 「家庭用生ごみ処理機等購入費補助制度」「大型生ごみ処理機貸し出し制度」のPRを実施した他、ダンボールコンポストの講習会を市民向け、学童向け、町内会向けに開催した結果、348世帯の増加となりました。年度目標は達成しましたが、2021年度の目標達成は難しい状況です。引き続き大型生ごみ処理機及び家庭用生ごみ処理機に係る市の支援内容をPRします。また、ダンボールコンポストは、講習会受講者やごみ減量サポーターを中心に広める仕組みを検討します。

(重点事業 19) 資源ごみ処理施設の稼働時期が遅延となったため、計画全体の見直しが必要な状況です。2018年度は、容器包装プラスチック市内全域における回収開始を見据えて、収集体制の見直しを行います。

(重点事業 21) 相原地区、上小山田地区の資源ごみ処理施設の整備は、2020年稼働に向けて調整を進めていましたが、事業に必要な用地の確保や関係機関等との協議・調整に時間を要していることから、稼働目標年度の見直しを行いました。相原地区は2025年度以降、上小山田地区は2027年度以降を新たな目標年度とし、引き続き協議・調整を行います。

●その他の施策

基本目標3	関連達成目標	取り組み結果(取り組み数)			
		◎	○	△	×
	①	1	27	4	1
	②	0	14	0	0
	③	1	21	3	1
	計	2	62	7	2

※ 複数の達成目標に関連する施策の場合は、重複してカウントしています

## 4 良好な生活環境の創造

<達成目標の進捗状況>

2021年度までの達成目標		達成状況				
		基準年	2016年度	2017年度	2021年度	
①大気に関するすべての項目での環境基準の達成を目指します。	SO <sub>2</sub> *	100%	100%	集計中	100%	
	NO <sub>2</sub> *	100%	100%	集計中	100%	
	SPM*	100%	100%	集計中	100%	
	Ox*	0%	0%	-	100%	
②鶴見川、境川、恩田川の水質に関するすべての項目での環境基準の達成を目指します。	BOD*	鶴見川	100%	100%	100%	100%
		境川	100%	100%	100%	100%
		恩田川	100%	100%	100%	100%
	SS*	100%	100%	100%	100%	
	DO*	100%	100%	100%	100%	
	pH*	鶴見川	100%	100%	91%	100%
		境川	100%	80%	90%	100%
恩田川		83%	67%	92%	100%	
③居住地の周辺環境について満足している市民の割合（2011年度、62.7%）の5ポイント増の67.7%を目指します。		62.7%	67.3%	62.5%	67.7%	

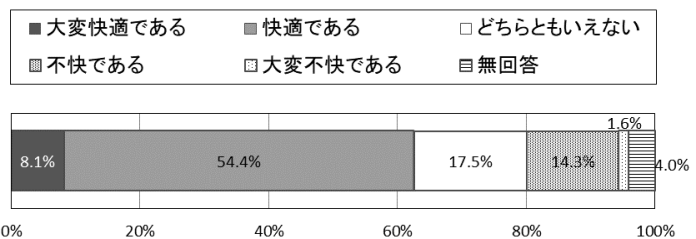
- ① 光化学オキシダント（Ox）は、環境基準の達成には広域的な取り組みが必要となり、一自治体の目標値と設定する項目としてそぐわないため、後期期間では指標から外しています。その他3項目は環境基準を達成しています。
- ② 水素イオン濃度（pH）以外は、環境基準を達成しています。pHは、4、7、10、1月と年4回実施する調査の内、4、7月の調査において、基準を超える測定結果となりました。3河川ともアルカリ側に超過しており、藻の光合成の影響と考えられます。
- ③ 居住地の周辺環境に満足している市民の割合は、2016年度から4.8ポイント、基準年からも0.2ポイント減少しています。

### アンケート結果 居住地の周辺環境について

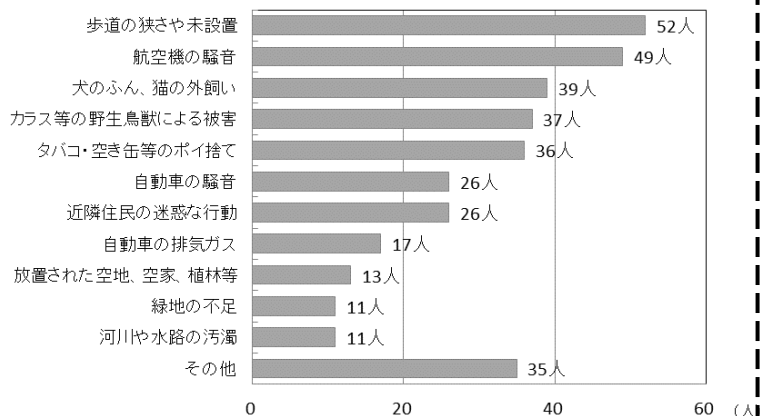
参考資料1\_P10

Q. あなたがお住まいになっている周辺の環境は、あなたにとって快適ですか。達成目標4-③

※達成状況の中では、「大変快適」「快適」の回答を「満足」と読み替えて集計しています。



Q. 「不快である」「大変不快である」を選んだ方、現在お住まいになっている周辺の環境について、気になっていることは何ですか（2つまで）。





<施策の取り組み結果>

取り組み結果の表記

◎：予定以上に進んだ ○：予定どおりに進んだ

△：あまり予定どおりに進まなかった ×：まったく予定どおりに進まなかった

●重点事業

関連達成目標	番号	重点事業名	目標	基準年度状況(値) (2015年度)	目標(値) (2021年度)	2017年度		年進捗目標	
						年度目標(値)	年度末現状(値)		
①	22	自転車利用環境の整備	自転車走行空間整備延長	1.37km(2016年度)	3.03km	・2016年度選定箇所に自転車レーンの設置 ・次期自転車レーン設置箇所の選定	1.67km	○	
②	23	下水道未整備箇所の污水管整備の推進	下水道人口普及率の増加	98.5%	99.0%		98.6%	98.7%	○
②	24	下水処理水の水質向上	高度処理化率の増加(段階的 高度処理を含む)	9.8%	20.6%	鶴見川クリーンセンター 高度処理設備増設工事の円滑な施工	9.8%		○
③	25	有害化学物質の適正管理・処理の指導	全対象事業場57箇所(2016年3月31日時点)への 継続監視	—	20件/年		年間立入件数20件	25件	◎
③	26	生活風景宣言等による良好な景観づくり	「生活風景宣言」件数の増加	—	5件(2020年度)		登録対象地域の候補の検討	0件	○

重点事業5事業はいずれも、年度目標に対して順調に進行しました。

中でも、重点事業 25 は、指導計画に挙げていた事業場と 2017 年度から対象となった事業場等を合わせて 25 件の事業場に対し立入を行い、有害物質を使用している施設の構造基準や使用方法に関して指導しました。また、必要な届出が提出されていない事業場に対して届出指導を行いました。

●その他の施策

基本目標4	関連達成目標	取り組み結果(取り組み数)			
		◎	○	△	×
	①	1	13	1	0
	②	0	12	0	0
	③	2	28	0	0
	計	3	53	1	0

## 5 環境に配慮した生活スタイルの定着

<達成目標の進捗状況>

2021年度までの達成目標	達成状況			
	基準年	2016年度	2017年度	2021年度
①環境に配慮した行動を行っている市民の割合（2011年度、40.7％）の10ポイント増の50.7％を目指します。	40.7%	38.6%	37.9%	50.7%
②市内の小中学校での環境教育や環境配慮行動の100％実施を目指します。	100%	100%	100%	100%
③環境学習や環境に関するイベント等に積極的（いつも・ときどき）に参加する市民の割合（2011年度、10.6％）の7ポイント増の17.6％を目指します。	10.6%	15.1%	15.1%	17.6%

- ① 環境に配慮した行動を行っている市民の割合は、減少しています。
- ② 市内の小中学校における環境学習は全校で継続的に実施され、定着しています。
- ③ 環境学習や環境に関するイベントへの参加率は増加傾向にあります。

### アンケート結果 達成目標5

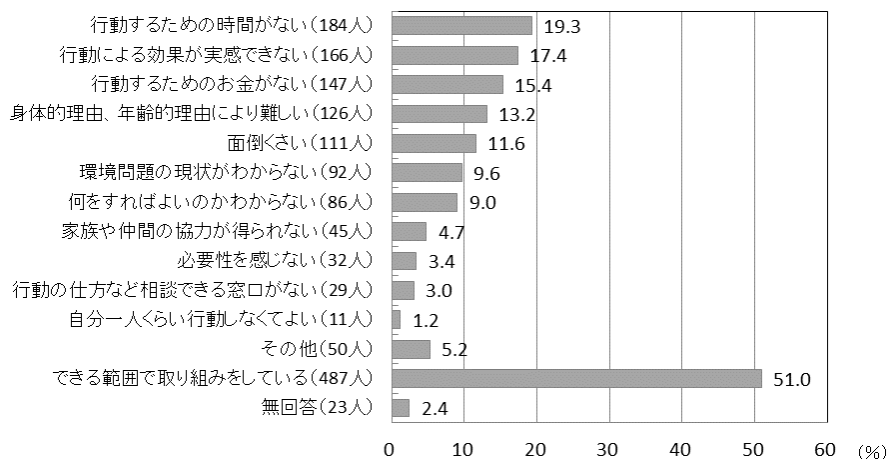
参考資料1\_P6、7

#### ①環境に配慮した行動について

Q. あなたのご家庭ではどのような環境に配慮した行動を行っていますか。

※達成状況の数値は、21項目の環境配慮行動の内、継続的に調査を実施している17項目における、「いつもやっている」の平均値です。この項目の内、「いつもやっている」と「ときどきやっている」を合計した割合の高い項目は、「ごみの分別の徹底」（97.4％）が最も高く、「トレイ・ペットボトル等のリサイクル」（96.1％）が続きました。

Q. 環境に配慮した行動を行う上で、「難しい点」「取り組みが行えない・行わない」理由は何ですか（2つまで）。



環境配慮行動を行う上で、「難しい点」「取り組みが行えない・行わない」理由は、「できる範囲で取り組みをしている」が最も多く51.0％でした。次いで、「時間がない」（19.3％）、「行動による効果を実感できない」（17.4％）という回答も多くありました。

<施策の取り組み結果>

取り組み結果の表記

◎：予定以上に進んだ ○：予定どおりに進んだ

△：あまり予定どおりに進まなかった ×：まったく予定どおりに進まなかった

●重点事業

関連 達成 目標	番号	重点事業名	目標	基準年度 状況(値) (2015年度)	目標(値) (2021年度)	2017年度		年 進 捗 目 標
						年度目標(値)	年度末現状(値)	
②	27	環境副読本を活用した環境教育の実施	環境副読本の市内公立全小学校での活用	—	市内公立全小学校42校	環境副読本の活用校数 33校	36校	◎
① ③	28	子ども向け環境講座のプログラムの企画・実施	新たなプログラムの企画・実施による環境学習の充実	既存プログラムの改善 新規プログラムの実施	新たなプログラムの企画・実施による環境学習の充実	環境学習の機会のさらなる充実	既存プログラム改善 新規プログラム実施	◎
①	29	まちだエコ宣言制度の推進	まちだエコ宣言制度への参加事業者数の増加	67店・事業所	100店・事業所	70店・事業所	61店・事業所	△
①	30	ホームページの充実による情報集約・発信	エコページへのアクセス数の増加	3,987件	8,000件	学習一覧作成着手	4,623件	○
			分野別・年代別環境学習一覧の作成	—	環境学習一覧の作成(2018年度)		骨子案作成	
①	31	ごみ減量サポーターの地域活動支援	ごみ減量サポーターが主体となり、出前講座やリサイクル広場の開催、大型生ごみ処理機導入を行う団体数の増加	—	10団体/年	地域活動団体数 10団体/年	20団体/年	◎

年度目標進捗が△の事業の状況を説明します。

(重点事業 29) まちだエコ宣言制度は、自主的に環境配慮活動を行っている事業者がその取り組み内容を宣言し、市がその取り組み内容を市民や他の事業者に広くPRし、更なる環境配慮型の事業活動及び消費活動を促進する制度です。2017年度は、町田エコフェスタで、エコ宣言参加事業者3社の環境配慮活動のPRを行いました。また、参加事業者が提出した活動報告を、市のホームページで紹介しました。商工会議所ニュースや環境広報紙で新規登録の募集を行いました。年度目標の達成には至りませんでした。2018年度は、商店会を通じ、呼びかけを行うなど、より積極的な呼びかけを行います。

●その他の施策

基本目標5	関連 達成 目標	取り組み結果(取り組み数)			
		◎	○	△	×
	①	1	19	1	1
	②	0	3	0	0
	③	1	9	1	1
	計	2	31	2	2